

第1回 千代川タイムライン検討会 ニュースレター

令和元年9月20日（金）鳥取河川国道事務所(9:30~12:00)

—次第一—

資料 2

1. 開会の辞・研修会の振り返り
2. 挨拶
3. 想定災害シナリオの把握
気象状況について
浸水状況について
4. グループワーキング
5. 総評

鳥取河川国道事務所 浜田副所長
鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授
気象庁 鳥取地方気象台
パシフィックコンサルタンツ株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

◆ 参加機関（県、市、他14機関(21機関中)）

座長	鳥取大学大学院工学研究科	
気象庁	気象庁 鳥取地方気象台	
鳥取県	県土整備部 河川課	
警察	鳥取県 警察本部 警備第二課	
	鳥取警察署	
	智頭警察署	
	郡家警察署	
市町	鳥取市 危機管理課	
自衛隊	陸上自衛隊 第8普通科連隊	
消防	鳥取県 東部広域行政管理組合 消防局 警防課	
ライフライン	中国電力株式会社	鳥取営業所【欠席】
		鳥取電力所【欠席】
	鳥取ガス 株式会社	施設管理部
通信インフラ	NTT西日本 株式会社 中国支店 鳥取営業所	
鉄道	JR西日本 株式会社 米子支社安全推進室	
バス会社	日本交通 株式会社 鳥取【欠席】	
	日ノ丸自動車 株式会社 鳥取【欠席】	
報道関係	NHK 鳥取放送局	
	日本海テレビジョン放送 株式会社 報道制作局	
	株式会社 山陰放送 鳥取支局【欠席】	
	山陰中央テレビジョン 株式会社	
	日本海ケーブルネットワーク 株式会社 鳥取【欠席】	
	株式会社 鳥取テレピア (いなばぴょんぴょんネット)	
国土交通省	中国地方整備局 鳥取河川国道事務所	殿ダム管理支所
		河川管理課
		防災課
		道路管理一課
		道路管理二課【欠席】

◆ 第1回検討会の内容

3. 想定災害シナリオの把握

✓ 気象状況について

- ・ **タイムライン作成で想定する台風シナリオ**
…平成10年台風10号を例として注意報や警報の発令のタイミングを確認。
- ・ **危険度に応じて発表される段階的な防災気象情報**
…気象状況に沿った気象庁等の情報、市町村の対応、住民がとるべき行動、警戒レベルを把握。
- ・ **タイムライン作成で想定する台風経路と台風情報**
…台風10号が鳥取県に直撃する5日前から半日前までの台風進路予想図を確認。



座学（想定災害シナリオの把握）の様子

✓ 浸水状況について

- ・ **想定最大規模洪水の概要**
- ・ **各観測所水位の変動状況**…各観測所の氾濫危険水位の超過は、**用瀬地点の氾濫危険水位超過から3時間程度と短く、本支川ともに水位上昇量が大い**ことが特徴。
- ・ **千代川水害タイムラインにおけるタイムラインレベル設定の考え方**
- ・ **氾濫特性の把握**…支川も含めた水位波形と浸水状況の時間変化を考慮し、タイムラインレベルを設定。**レベルごとの浸水範囲の時系列浸水深図**に加え、**状況イメージ写真**で降雨開始から本川からの越水・堤防の決壊までの状況を把握。
- ・ **水害リスクの把握**
- ・ **最大浸水区域における施設浸水状況**

4. グループワーキング

…同様の役割を有する機関のグループに河川管理者・気象庁職員が参加した合計3グループの構成でワーキングを行いました。縦軸（重要度・影響度）と横軸（自機関・他機関）の2軸で、防災行動項目をタイムラインレベルごとに整理しました。

■1グループのイメージ

同様の役割を有する機関

+

河川管理者・気象庁

Step 1

浸水リスクの把握と
行動項目の選定・追加



- ① テーブルごとにファシリテーターから水害リスクについて説明。
- ② 事前作業チェックシートを参照し、タイムラインレベルごとの行動項目を付箋に記入。

Step 2

グループで水害発生時の
重点行動項目の抽出と整理



- ① 各機関で意見交換。
- ② 適宜行動項目の付箋を追加。
- ③ 行動の重要度・影響度を確認しながら、レベルごとの大判ワークシートに付箋を貼付。

Step 3

ワーキング結果発表

各テーブルの代表者がタイムラインレベルごとのワーキング結果を発表。



■ワーキング成果

グループ名	主な発表内容
② 報道・避難対応 防災情報	TL Lv.0から気象情報、河川情報の収集。必要に応じて行動する。最近では発表が早いJRの計画運休、高速道路の情報収集も行う。災害が発生するTL Lv.3から避難情報の報道やL字放送を開始する。TL Lv.5からなど、必要に応じて通常番組中断、特別放送を行う。
③ 大規模避難・救助 防災情報	対策を決めるための情報収集が重要。注意報と警報発令が同じTL Lv.2であるため、本グループではTL Lv.2-1と2-2の2つに分割。情報収集、体制の構築→緊急時対応という流れ。
④ 社会基盤 防災情報	災害発生前までは現場の点検作業や情報収集。ホットラインの活用も積極的に。TL Lv.1ではリエゾン体制準備、JRは計画運休公表。県は国よりも早い段階から水防警報を発令。TL Lv.2からダム体制を構築。TL Lv.5では排水ポンプ車の排水や、その後の復旧を検討開始。収束に向かってどう行動していくかが重要。

◆ 第2回 千代川タイムライン検討会の予定

- 開催時期：令和元年 11月27日 14時～17時
- 検討会内容：重点行動項目の具体化・細分化

1. 千代川水害タイムラインは多機関連携型であることを踏まえ、各機関の行動項目のうち、他機関との連携を伴う項目を「重点行動項目」として選定する。
2. 「重点行動項目」を、行動手段・内容が分かるレベルに「いつ」「何を」すべきか具体化・細分化する。

→作成したワークシート

